

極大果で食味のよいイチゴ新品種「おおきみ」

イチゴの促成栽培では、総労働時間の約5割を占める収穫・調製作業の効率化が課題で、これらの作業を省力化できる品種の育成が求められていました。また、近年、消費者ニーズが強くなっている大果で減農薬栽培に適した品種の開発も課題となっていました。そこで、(独)農研機構九州沖縄農業研究センターでは、大果で果実の揃いが優れ、収穫・調製作業の省力化が可能で、重要病害である炭疽病、うどんこ病、萎黄病に対して抵抗性を有するイチゴ品種を開発しましたので、その特性について紹介いたします。

☆ 技術の概要

1. 「おおきみ」は、大果で果実品質の優れる「さつまおとめ」を母親、極大果の「いちご中間母本農1号」を父親とした交雑実生から選抜された促成栽培に適した新品種です。
2. 草姿は立性で、直枝型の果房形態を有し、果房当たりの着果数が少ないため摘果作業が不要です。休眠は浅く、厳冬期の草勢は「とよのか」より強めです。花芽分化期は、ポット育苗で9月下旬、「とよのか」に比べ、開花始期は5日、収穫開始期は7日程度遅い品種です。
3. 果実は平均果重が20g以上の極大果で、形状(円錐～短円錐形)の揃いに優れています。果皮色は橙赤～赤で光沢があり、果肉色は淡橙色～淡赤です。果実は、硬めで、日持ち性に優れ、糖度が高く、香りもよく、食味は極めて良好です。商品果率は極めて高いです。

表1 「おおきみ」の促成栽培における収量と果実品質

品 種	収 穫 開始日	収 量 (kg/a)	商品果 率(%)	平均果 重(g)	糖 度 (Brix%)	酸 度 (%)	硬 度 (N)	品 種	規格別占有割合(%)			
									2L以上	L	M	S
おおきみ	12/30	508	87	21.9	10.1	0.62	2.35	おおきみ	67.9	15.2	12.8	4.1
とよのか	12/23	499	69	13.7	8.9	0.61	2.07	とよのか	25.7	21.5	30.3	22.5
さちのか	1/1	564	70	12.0	9.5	0.62	2.54	さがほのか	29.7	24.1	26.5	19.8

注) 規格：2L；20.0g以上、L；15.0～19.9g、M；10.0～14.9g、S；6～9.9g

4. 萎黄病および炭疽病に対して中～やや強程度、うどんこ病に対して強度の抵抗性を示します。

表2 「おおきみ」の病害抵抗性

品種名	炭疽病		うどんこ病		萎黄病	
	発病度	枯死株率(%)	発病株率(%)	発病度	発病度	枯死株率(%)
おおきみ	37	20	10	0	10	0
宝交早生	25	5	50	2	53	13
とよのか	48	38	100	51	—	—
女峰	73	90	—	—	—	—
麗紅	—	21	—	—	47	3

注1) 検定法：炭疽病は噴霧接種、うどんこ病は自然発病、萎黄病は汚染圃場

注2) 発病度=Σ(評点指数) / (4 × 供試サンプル数) × 100

☆ 活用面での留意点

1. 本品種の極大果性と優れた果実品質を活かして、家庭消費だけでなく贈答用への需要拡大が期待できます。品種登録出願中ですが、民間種苗会社を通じて販売が予定されています。
2. 詳しいことは、九州沖縄農業研究センターイチゴ周年生産研究チーム(電話：0942-43-8362)へお問合せください。(日本政策金融公庫 テクニカルアドバイザー 袴田 勝弘)